

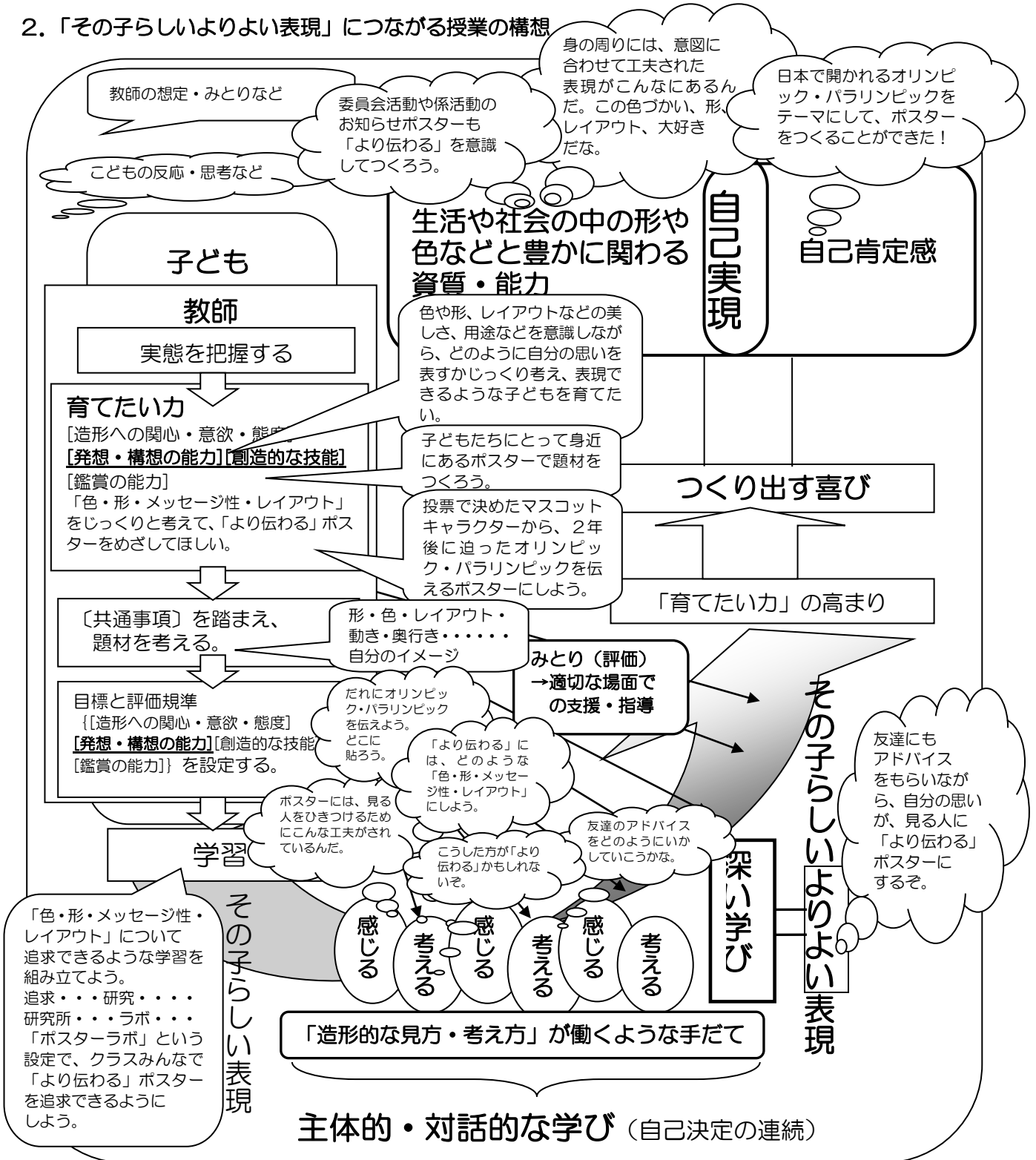
第5学年3組 図画工作科学習指導案

指導者 川崎市立稗原小学校

石川 裕貴

1. 題材名 「ポスターラボ5-3 ～東京2020オリンピック・パラリンピックを伝えよう～」
A表現（2）工作に表す 6時間扱い

2. 「その子らしいよりよい表現」につながる授業の構想



3. 活動場所 5年3組教室

4. 題材観

(1) 子どもたちの実態

男子19人、女子11人の30人クラスである。教科や領域を問わず、つくったりかいたりする活動に興味をもって取り組む。

「取り出した形」では、オブジェの鑑賞から抽象的な形の美しさや面白さなどに気づき、木彫風粘土を彫ったり削ったりして抽象的な形をつくった。表現することに慎重な子どもたちなので、自分のイメージに合わせて、用具を安全に使い、彫り方や削り方を工夫して美しさや面白さを形に表していく題材を通して、創造的な技能を育てたいと考えた。

思いのままに彫ったり削ったりして生まれてくる形の美しさや面白さを感じながら、どの子どもも自分の思いに合った形に仕上げている。最初は、新しく出会った材料、削ったり彫ったりしてマイナスしながら形をつくる木彫風粘土の特徴に戸惑う姿も見られた。しかし、全体で様々な技法を一つ一つ丁寧に確認したり、個別に支援したりすることで、試しながら慣れていく姿が見られた。初めてのことに對しては、慎重になりがちなの子どもたちであるが、手だてをとりながら励まし応援していくことで、一人一人が創造的な技能を発揮する姿が見られた。彫ったり削ったりすることを楽しみながら、現われてきた形からイメージを見つけていた。

このように、「取り出した形」のように、表現しながらイメージを見つけていくことに對しては抵抗がない子どもたちであるが、主題の表し方を構想していく力には個人差がある。

(2) 題材と育てたい力

育てたい力：発想・構想の能力 創造的な技能

本題材では、2020年に東京で行われるオリンピック・パラリンピックを伝えるポスターをつくる。「取り出した形」は、思いのままに彫ったり削ったりして形を見出していく題材であった。そこには、偶然性から生まれる美しさもあった。しかし、本題材は逆で、「オリンピック・パラリンピックを伝える」という用途を意識してつくっていくことが大切になる。誰に何を伝え、そのためにどこに掲示するポスターなのか、オリンピック・パラリンピックに對するどのような思いを伝えるためのポスターなのか、ということを考える時間を設定する。オリンピック・パラリンピックに對する思いを高めることで、そのような用途の意識につながると思う。発想・構想する段階では、子どもたちの実態から、段階的に発想・構想していけるような学習活動となるよう心がける。考える時間を十分にとったり、アイディアスケッチを描いて計画的につくったりすることを通して、自分なりの発想・構想でポスターを完成させられるようにしたい。そして、用途を考えながら、自分の思いに合わせて「色・形・メッセージ性・レイアウト」という視点で自分の活動・ポスターと向き合っていて考えながら「より伝わる」ポスターをつくることを目指したい。自分で試行錯誤していくことに加え、友達どうして見合いアドバイスできる場の設定、時間の設定を取り入れることで、さらに相手に「より伝わる」ということを追求していくことができるようになる。そうした題材の学習の流れにすることで「造形的な見方・考え方」でじっくりと考えていけるようにし、発想や構想の能力の育成につなげたい。形や色、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように自分の思いを表すかについてじっくり考えられるような子どもを育てたい。また、その思いに合わせて表し方を工夫しようとしていくことで、その子らしいよりよい表現の追求につながると考える。

ポスターをつくる活動としては、4年生の時には、国語で読書紹介のポスターをつくる活動を行っている。5年生になってからは、国語でおすすめの本を紹介するキャッチコピーをつくる活動をした。そのため、「ポスター」や「印象に残る伝え方」についてはイメージがあると思われる。その経験をいかしながら、ポスターをより造形的な視点でとらえなおしていく。そして、その特徴を一人一人がつかむことで、自分の表現にいかしていけると考える。今までの学習経験から、短い言葉でオリンピック・パラリンピックを表すキャッチフレーズをレイアウトに加える子どももいるだろう。今回は、キャッチフレーズの言葉の吟味に時間をかけてしまうのではなく、それをどのように表し、どこにどのようにレイアウトしていくか、ということ子どもが考えていけるようにしていきたい。題材を通じて、「ポスターラボ」で子どもたちが「感じる」、「考える」ことを繰り返して自己決定しながら主

体的・対話的に学んでいけるようにしたい。そして、見る人に「より伝わる」ようにするために自分なりのよりよい表現を追求できるようにして欲しいと考えている。

ポスターは子どもたちにとって身近なものである。そうした身近なものだからこそ、造形的な見方・考え方を働かせながらつくりだす喜びにつなげていけると考える。そして、今後ポスターのように「何かを伝える」ものをつくる際に、「より伝わる」ということを意識して「色・形・メッセージ性・レイアウト」を考えて欲しい。

また、東京で開かれるオリンピック・パラリンピックをテーマとしたポスターをつくることができた、という自己肯定感につながるだろう。ポスターをつくるという本題材の活動を通して、これから先、オリンピック・パラリンピックが開かれる2年後、5年後、10年後・・・と、これから出会う様々な場面で色・形・レイアウトの美しさ、メッセージ性などを見出していたり、自分の造形表現にいかしていこうとしたりする、そのような子どもたちになって欲しいと願っている。

(3) 造形的な見方・考え方が働くような手立て

～「その子らしいよりよい表現」につなげるために～

① 様々なポスターから「より伝わる」ようにするためのポイントを見つける。

意図して選んだポスターを見る時間をつくる。そこから写真・絵・色づかい・タイトル・メッセージなどが工夫してレイアウトされていること、統一感のある美しさ、字体・枠など字の見せ方の工夫があることをとらえられるようする。そして、それが見る人の目をひきつける工夫となっていることを感じられるようにする。そこから「色・形・メッセージ性・レイアウト」というポイントをポスターづくりにいかしていけるようにする。

② 場面の設定の工夫「ポスターラボ」

設定として、ポスターを研究する「ポスターラボ」という名称をつくる。ポスターに囲まれたラボ（教室）。そこに、2年後に東京で行われるオリンピック・パラリンピックのポスター制作の依頼が来た、という設定で目的意識をもてるようにする。ポスター研究が目的のラボは、子どもの活動から「成果」が増えていく予定。

③ テーマと向き合う時間

第1時で「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスターをつくろう」というテーマを提示した後、第2時でアイディアスケッチを描くまで時間をあける。そうすることで、テーマと向き合って考えられるようにする。また、マスコットキャラクターを描いてみる時間をとることで、よりオリンピック・パラリンピックが身近になると考える。

④ イメージをふくらませるワークシート

誰に何を伝え、どこに掲示するのか、どんなオリンピックにしたいのかという、自分の思いに向き合えるようなワークシートを用意する。また、そのアイディアをもとにすぐスケッチできるようなワークシートにすることで、イメージをふくらませられるようにする。

⑤ お互いの作業を見られるような机の配置

ラボ（教室）の机の配置を4・5人のグループの形にしておくことで、お互いの作業を見たりアドバイスしたりできるようにする。そこから感じたり考えたりすることでよりよい表現につなげていけると考える。

⑥ 十分な量の画用紙などの材料の用意

自分の思いに合わせて画用紙などの材料を選べるようにしておく。また、あまり広くないラボ（教室）なので、それをすぐに手にとることができる。

⑦ 技法の提示

色で表す・形で表す・絵で表す・模様で表す・コラーージュで表す などの技法を提示することで、自分の思いに合った技法を考えることができるようにする。また、提示した以外の技法を子どもたちが見つけたら、その思いに寄り添って必要なことを支援していく。そして、ラボの「成果」と

して全体で共有していく。

⑧ 材料・用具・ヒントコーナー・参考作品の配置

ポスターの参考作品は、いつでも見られるように教室の壁面に掲示しておく。また、子どもたちが見つけたポスターの特徴も掲示していく。また、思いに合わせて材料や用具を選んですぐ手に取れるような場の設定、技法のヒントとなるようなコーナーの設置で、つくりながら考えていけるようにする。

⑨ 「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」展示会（鑑賞）

鑑賞の設定を「展示会」とし、半分ずつのローテーションで2回に分けて行うことで集中して作品と向き合えるようにする。ローテーションの関係で展示会で見られない作品が出てくるが、鑑賞したことを共有する時間の設定や全員分の掲示を通して、できる限り様々な作品に目が向くようにする。

(4) 題材のねらい

「東京2020オリンピック・パラリンピックを伝える」という用途を意識して、「色・形・メッセージ性・レイアウト」を考えながら「より伝わる」ポスターをつくる。

5. 題材の評価規準 ～ 4つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○ポスターに関心をもち、自分の思いやオリンピック・パラリンピックを伝える、という用途を考えてつくろうとしている。	○「色・形・メッセージ性・レイアウト」という視点で「より伝わる」ポスターを考えている。	○自分の思いが「より伝わる」表し方に合わせて、ポスターの表し方を工夫している。	○ポスターの意図を考えたり、様々な表し方の工夫について話し合ったりしてよさを感じ取っている。

6. 準備

[教師] 様々なポスター、ワークシート、画用紙（四つ切り）、色画用紙（四つ切り）、千代紙、折り紙、共同絵の具、ペン、スティックのり、ボンド、カッターナイフ、カッター板、刷毛、ローラー、参考となる本など（図書室よりピックアップ）、デジタルカメラ、ダブルクリップ、画板、作品カード、鑑賞カード

[子ども] 筆記用具、色えんぴつ、はさみ、スティックのり、絵の具セット

7. 指導と評価計画（6時間扱い 本時4/6）

	◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手だて ◎造形的な見方・考え方が働くような手だて	評価規準【 】と 評価方法（ ）
1 次 45 分 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・「たくさんの紙が貼ってあるぞ。」 ・「これはポスターだね。」 ・「ポスターについての何かがあるんだよ、きっと。」 	<ul style="list-style-type: none"> ◎様々なポスターをあらかじめ掲示し、「ポスターラボ」をつくっておく。 その際、1時間目にこの時間を設定し、朝教室に入った瞬間にポスターが目に入るようにしておく。 	
	<p>ポスターラボ5-3 ポスターについて研究しよう</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ポスターについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ポスターみたいなものは国語でつくったことがあるよ。」 ・「本を紹介したよね。」 ・「キャッチフレーズをつけて。」 ・「図工的な見方と言われると、色とかが目に入ってくるね。」 ◇様々なポスターを見る。 ◇ポスターの特徴を見つけ、ワークシートに書きだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・色づかいや、写真、絵などに注目しながら書きだしている。 ・なかなか特徴を見つけられない。 ◇見つけたことを共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「色が目立つ。」 ・「絵や写真の見せ方が工夫されている。」 ・「字が囲まれていて見やすい。」 ・「全てがまとまっている。」 ・「ポスターが目立つように工夫されているんだよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポスターについて学習したことがある、という声があったら今回は図工な見方をしていくことを伝える。 ○「ポスター」について説明する。 ポスター→掲示するための(美術的な) 宣伝用貼り紙 ○掲示してあるからいくつかを取り上げ、テレビの画面で見られるようにする。 ○色や写真、絵などの使い方に注目するよう声をかける。 ◎この活動から、次のことに気づけるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真、絵、色づかい、タイトル、メッセージなどが工夫してレイアウトされている ・統一感のある美しさ ・字体、枠など字の見せ方の工夫 →<u>思いが伝わる工夫</u> これが、宣伝・広告につながる。 ○共有したことは、次時以降にも掲示して見られるようにする 	<div data-bbox="1070 1563 1310 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・色 ・形 ・メッセージ性 ・レイアウト という視点につなげる </div> <p>【関・意・態】 ポスターに関心をもち、特徴をとらえようとしている。 (ワークシート・つぶやき・発言)</p>

	◇次時の見通しをもつ。	◎ポスターラボに2年後に東京で行われるオリンピック・パラリンピックのポスター制作の依頼が来たことを伝える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」をつくろう。</p> </div>			
	◇オリンピック・パラリンピックについて知る。	○次時以降にポスターをつくることを知らせる。 ○オリンピック・パラリンピックについて学ぶ時間をとり、イメージにつなげていく。 ○本を見たり、マスコットキャラクターを自由に描いたりポスターをつくってみたりできる環境をつくっておく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポスターラボ5-3 「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」のアイデアスケッチをしよう。</p> </div>			
2 次 180 分 ②	◇テーマである「東京2020オリンピック・パラリンピック」について、誰に何を伝えるかを考える。	○ポスターのテーマについて改めて確認する。 ○ワークシートを用いてイメージが広げられるようにする。	
	誰に ・オリンピック・パラリンピックについて詳しくない人に ・いろいろな国の人に ・学校の人に ・地域の人に	○「誰に」「思い」「何を」「どこに」を関連させて考えられるように支援する。	
		思い（意図） ・外国の人と仲よくしたい ・日本を知ってもらいたい ・マスコットがあふれる ・稗原の町も盛り上げる	
	何を ・学校 稗原（身近） ・ぼく わたし（自分） ・いろいろな国の人 ・サッカー（競技） ・スカイツリー ・東京タワー（名所） ・和食 着物（文化）	どこに（掲示するか） ・空港 ・学校の廊下 ・図書館 ・子ども文化センター ・町の掲示板	

	<p>◇イメージをもとに、アイディアスケッチをする。</p>	<p>○表現方法は多様に考えられることを伝え、描けるか、描けないかで考えないように声をかける。</p> <p>◎様々な表現方法を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・色で表す ・形で表す ・絵で表す ・模様で表す ・コラージュで表す </div> <p>○前時に見つけたポスターの特徴についても確認する。</p> <p>○一人一人の思いに合わせて支援していく。</p>	<p>【関】 ポスターに関心をもち、自分の思いやオリンピック・パラリンピックを伝える用途などを考えてつくろうとしている。 (活動・ワークシート・つぶやき)</p> <p>【発】 「色・形・メッセージ性・レイアウト」という視点で「より伝わる」ポスターを考えている。 (活動・ワークシート)</p>
<p>③</p>	<p>ポスターラボ5-3 「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」をつくろう。</p>		
<p>◇ベースとなる画用紙を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「他の部分が目立つようにベースを黒にしよう。」 ・「陸上トラックにするから茶色をベースにしよう。」 ・「白ベースにして描き込んでいこう。」 ・「選べないなあ。」 <p>◇文字や絵をどのように描いていくか考え、パーツをつくっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マスコットを描いて、切って貼るようにしよう。」 ・「文字を一文字ずつ○に入れて目立たせよう。」 ・「千代紙を切って日本の着物をイメージしよう。」 ・「ローラーでベースの画用紙に色の重なりを表現しよう。」 ・「2種類描き方を思いついたけど、どうしよう。」 ・「新しいアイディアを思いついたぞ。」 	<p>○3時間で完成させること、活動の流れを伝え、見通しをもってつくれるようにする。</p> <p>◎お互いの作業を見られるような机の配置にする。</p> <p>◎十分な量の画用紙などの材料を用意しておき、思いに合わせて選べるようにしておく。</p> <p>○アイディアスケッチをもとに対話しながら、共に選ぶようにする。</p> <p>◎どの部分をベースとなる画用紙に直に描き、どの部分を貼りつけていくか作業を通して考えていけるようにする。</p> <p>○アイディアスケッチはしてあるが、よりよいレイアウトを考えていくためにまだ貼りつけていけないように伝える。</p> <p>○手元にワークシートを置くよう伝え、悩んだり新しいアイディアが思いついたりしたら絵や文字をスケッチできるようにする。</p> <p>○アイディアスケッチと変わっていてもよいことを伝える。</p> <p>○パーツは、クリップで一まとめにしておけるようにする。</p>	<p>【関】 ポスターに関心をもち、自分の思いやオリンピック・パラリンピックを宣伝する用途などを考えてつくろうとしている。 (活動・ワークシート・つぶやき)</p>	

<p>④ 本時</p>	<p>ポスターラボ5-3 「より伝わる」ということを考えて、 「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」をつくろう</p> <p>◇お互いの途中経過を見合いアドバイスしあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マスコットキャラクターをもっとこっちに動かした方がいいよ。」 ・「この色の組み合わせよりも、こっちの方が目立つ気がするよ。」 ・「あまり納得いかないな。」 <p>◇アドバイスも取り入れながら、ポスターづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このレイアウトで貼っていこう。」 ・「アドバイスの通りに違う色にしよう。まずは試して置いてみようかな。」 <p>⑤ ◇自分の思いに合わせてポスターをよりよいものにしていく。</p>	<p>◎思いが伝わる工夫となっているかを再度確認する。 アドバイスの視点として、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・色 ・形 ・メッセージ性 ・レイアウト <p>という視点を確認する。</p> </div> <p>◎自分の思いを大切にすると同時に、それにプラスして他の人の意見も大切になってくることを伝えたい。</p> <p>◎グループだけでなく、より多くの友達の意見も聞くことも認める。</p> <p>○個別に見て回り、アドバイスしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・模様で表す ・色で表す ・形で表す ・絵で表す ・カラーシチュで表す </div>	<p>【発】 「色・形・メッセージ性・レイアウト」という視点で自分の「より伝わる」ポスターを考えている。 (活動・つぶやき・作品)</p> <p>【創】 自分の思いが「より伝わる」表し方に合わせて、ポスターの表し方を工夫している。 (活動・作品)</p>
<p>3 次 45 分</p> <p>⑥</p>	<p>ポスターラボ5-3 「東京2020 オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」展示会</p> <p>◇友達のポスターを見て</p> <p>①意図(思い) どんなオリンピックにしたいと思ってポスターをつくったか。</p> <p>②表し方の工夫 について気づいたことをワークシートに記入していく。</p>	<p>○鑑賞時間を 前半15分、後半15分のローテーションにする。</p> <p>○ポスターを画板にダブルクリップで軽くはさみ、壁際に置いた机の上に立てかける。 机はコの字型にして見て回れるようにする。</p> <p>○展示会ということで、ポスターの作者も展示会に来ているという設定にする。</p> <p>○作品カードについては、記入してポスターにつけておくが、鑑賞カードの記入後に見るように伝える。</p>	

	<p>◇鑑賞して気づいたことを共有する。</p> <p>◇本題材の学習のふりかえりをする。</p>	<p>○作者との対話を通して、意図や思い、工夫にふれるよう伝える。</p> <p>○ポスターをつかって、鑑賞して考えたことなどをまとめられるようにする。</p>	<p>【鑑】 友達のポスターの意図を考えたり、様々な表し方の工夫について話し合ったりしてよさを感じ取っている。 (様子・発言・鑑賞カード)</p>
--	---	--	--

8. 本時の活動（4/6時間 45分）

（1）本時のねらい

自分の思いが「より伝わる」表し方となるように工夫している。

（2）本時の展開

<p>◇子どもの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される子どもの反応 	<p>○教師のかかわり・手だて</p> <p>◎造形的な見方・考え方が働くような手だて</p>	<p>評価規準【 】と 評価方法（ ）</p>
<p>ポスターラボ5-3 「より伝わる」ということを考えて、 「オリンピック・パラリンピックを伝えるポスター」をつくろう</p>		
<p>◇お互いの途中経過を見合い、アドバイスしあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マスコットキャラクターをもっとこっちに動かした方がいいよ。」 ・「この色の組み合わせよりも、こっちの方が目立つ気がするよ。」 ・「あまり納得いかないな。」 <p>◇アドバイスも取り入れながら、ポスターづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このレイアウトで貼っていこう。」 ・「アドバイスの通りに違う色にしよう。まずは試して置いてみようかな。」 ・つくる手が止まっている。 <p>◇活動のふりかえりをする。 （個人→全体での共有）</p>	<p>◎思いが伝わるものとなっているかということを考えて友達にアドバイスするように伝える。その際、次の視点を再度確認する。</p> <div data-bbox="651 810 1129 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・色 ・形 ・メッセージ性 ・レイアウト </div> <p>○友達の違い、友達の作品を大切にできるような雰囲気づくりをする。</p> <p>◎アドバイスを全て受け入れなくてもよいが、自分の思いを大切にすると同時に、今回は「より伝わる」ことが大切になるため、他の人の意見も大切になってくることを伝えたい。</p> <p>○グループだけでなく、より多くの友達の意見も聞くことも認める。</p> <p>○思考錯誤しながら、時間をかけて考えていくように促す。</p> <p>○つくりながら、自分の思いに合わせてよりよいものへつくりかえていってもよいことを伝える。</p> <p>○個別に見て回り、アドバイスしていく。その際、様子を見て深く考えているのか、行き詰っているのかを見極めて声をかけていくように心がける。</p>	<p>【発】 「色・形・メッセージ性・レイアウト」という視点で自分の「より伝わる」ポスターを考えている。 （活動・つぶやき・作品）</p> <p>【創】 自分の思いが「より伝わる」表し方に合わせて、ポスターの表し方を工夫している。 （活動・作品）</p>

<参考資料>

「造形的な見方・考え方」が働くような手だて

1. 「造形的な見方・考え方」を働かせながら、主題・材料・技法と関わることができるようにするために・・・
2. 「造形的な見方・考え方」を働かせながら、作品をつくりたりみたりできるようにするために・・・
3. 「造形的な見方・考え方」を身につけ、生活に活かせるようにするために・・・

